

（ 匠の技を見て、ふれて、楽しめる『工房街道』 ）

「奈良のむらづくり協議会」（代表幹事：奈良県立大学教授 村田武一郎）は平成19年2月、住む人と訪れる人の間に信頼関係が醸成され、各地域の自律発展につながる「むらづくり」を進めるとともに、奈良にこだわりをもち、積極的な活動を展開している人々の交流促進の役割を果たすことを目的に設立された団体である。

奈良県東部・中部の中山間地域には、優れた技術をもって発展してきた伝統産業・地場産業の工房が数多く立地しているほか、木工や紙漉きなど様々な分野のデザイナーや芸術家が移住し、工房をかまえている。同協議会では、これらの工房を結び「工房街道」として新たな観光交流に繋げようと、様々な取組みを展開しており、8月22日に、都市住民を対象として、各地の工房を巡る「工房街道バスツアー」（参加者44人）を開催した。

同ツアーでは、先ず奈良市東部の田原地区にあるステンドグラスと陶芸の工房を訪問。ステンドグラス工房「サロン メリーガーデン」ではランプシェード（ランプの笠）の作業工程を見学した。

次に宇陀市室生区の「ふるさと元気村」を見学。同施設は、廃校になった校舎を改装して昨年4月にオープンした施設で、陶芸や、染色、竹細工、切絵などの工房が入り、教室を開いている。

続いて、吉野町国栖地区では、1,300年前からある伝統手法で和紙を作っている福西和紙本舗を訪問。杉皮紙の紙漉き作業を見学。

最終目的地の川上村の「匠の聚」は、雄大な自然の中で、芸術家（洋画、日本画、彫刻、陶芸、木彫、写真など）8名が居住して創作活動を行っている。ギャラリーや、観光客が宿泊できるコテージもあり、作家と直接語りあえるのがこの聚の魅力である。

このツアーは、まず工房が多く立地する地域であることを知ってもらい、興味のある人に再訪してもらうことが狙い。多くの参加者は、工房での実演見学が魅力で、新たな発見や地域の人や芸術家との触れ合いも楽しめると、満足した様子であった。

また、同ツアーの参加者へのアンケートによると「工房として使える民家や施設を斡旋してもらえれば」という人が3名、「技術指導を得られれば」という人が3名あり、自然豊かな当地域で工房を構えたいというニーズもあることが伺える。今後、見学・体験等の受入れを進めるのみならず、空き家斡旋や技術指導の仕組みなど受入体制を強化していくことで、都市住民との交流が促進され、地域の活性化が図られることが期待される。（上田）



宇陀市室生区の「ふるさと元気村」



吉野町国栖 紙漉き作業

（写真提供：奈良のむらづくり協議会）

これからの主な催し

〔主な行事〕

●10月26日（日）～11月9日（日）9時～16時

信貴山朝護孫子寺

国宝・信貴山縁起絵巻特別出陳

寺を再興した命蓮上人が興した数々の奇跡が著された3巻の絵巻物（国宝）のうち「延喜加持の巻」が特別公開される。

信貴山朝護孫子寺は、聖徳太子が建立した毘沙門天王の総本山。信貴山の中腹にあり、巨大な張り子のトラでも有名。

場所：生駒郡平群町信貴山

交通：近鉄生駒線信貴山下駅から信貴山行バスで信貴山下車、徒歩15分

問い合わせ先：0745-72-2277